特集[1]

中高一貫教育がスタート！

春、新しい年度の始まりです。皆さんはどんな新年度を迎えていますか。ところで、皆さんは「中高一貫教育」という言葉を聞いたことがありますか。県内ではこの4月から、塙町、田島町、相馬市で、今年中学校に入学する1年生を対象に、「中高一貫教育」がスタートしました。いったいどんな取り組みなのでしょうか。皆さんと一緒に見ていきたいと思います。

中高一貫教育とは

「中高一貫」を文字どおり理解すると「中学校と高等学校を一続きにすること」です。

一続きにする方法には、次の三種類があります。

①「中等教育学校」

中学校と高等学校を一つの学校として6年間通して教育します。一つの学校なので、中学校段階から高等学校段階に進む時に入試がありません。

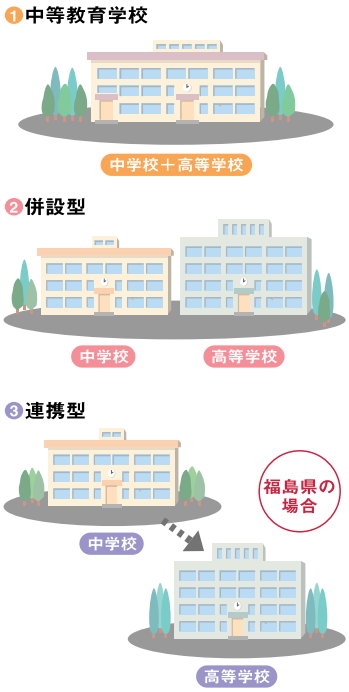
②「併設型」

中等教育学校よりも緩やかな形態です。これまでは、中学校は市町村立、高等学校は県立など設置者が異なっていることが多いのですが、「併設型」では、同一の設置者による中学校と高等学校において、6年間通した教育を行います。

③「連携型」

設置者が異なる中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員や生徒間の交流などで連携を深めます。

このうち、17年度から福島県で実施されるのは「連携型」です。



中高一貫教育導入の背景は？

中高一貫教育には、主に次のような効果が期待されています。

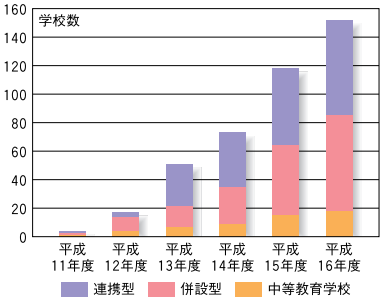
●6年間計画的・継続的に生徒を把握することが可能となり、生徒の個性の発見や創造性を伸ばすことにつながる。

●中学1年生から高校三年生までの生徒が共に活動することで、社会性や幅広い人間性が身につく。

中学校や高等学校の期間は、生徒の能力、適性、興味、関心、進路希望などが分かれていく時期にあたります。この時期の生徒たちにどのような教育の場を用意するかは教育上の重要な課題として捉えられ、これまでにも学科や授業内容、履修方法などの見直しが進められてきました。そうした措置に加えて「中高一貫教育」という新たな制度を導入することで、生徒や保護者がより多様な教育の機会を得られるようにと、平成11年度から設置が認められたのです。以降、全国各地で中高一貫教育の導入が進んでいます。

県では、平成10年度から各地で中高一貫教育実践研究事業を実施するなど導入について検討を重ね、今回の連携型の開始に至りました。

●全国の年度別・形態別設置状況



どんな連携？

～三地域での取り組みの概要～

塙町

県立塙工業高等学校 ⇔ 塙町立塙中学校

基礎学力の向上に向け、英語・数学・国語について週二日、高校の先生が中学校で授業をします。技術家庭科の技術部分についても指導します。

また、工業高校の施設を活用して「ものづくり教育」を行い、ものをつくる楽しさ、技術の重要性についても中学生に体験してもらう予定です。

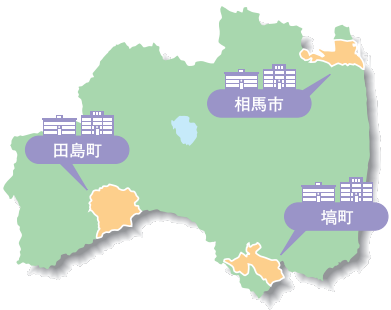
田島町

県立田島高等学校 ⇔ 田島町立田島・檜沢・荒海中学校

基礎学力の充実強化に向け、高等学校の先生が週に一回、英語と数学の授業を行います。

環境や福祉など特徴ある高校の授業と中学校の「総合的な学習時間」を連携させます。

さらに朝の読書や中高合同の芸術鑑賞会などを通じ、人間性や社会性を育みます。



相馬市

県立相馬東高等学校 ⇔ 相馬市立玉野・中村第一・中村第二・向陽・磯部中学校

県立相馬東高等学校では、各中学校へ週一回、英語と数学の先生を派遣して授業を行います。この二教科以外にも、中学校ごとに音楽や書写などの科目で連携します。

同校は、人文科学、自然科学、生活福祉など7つの系列を持つ総合学科高校。それぞれの科目を中学校の「総合的な学習の時間」で見学するなどの取り組みも進めます。

Interview

地域全体の学力の向上につなげたい

県立塙工業高等学校
校長 **小菅 富士雄**

我々としては、基礎学力の向上を図るほかに、連携中学校の皆さんにものづくりの楽しさや素晴らしさを体験してほしいと願っています。そうした経験をきっかけとして、ものづくりに魅力を感じた生徒さんが連携高校に来てくれればありがたいことです。また、別の進路を希望する生徒にとっても、ものをつくる技術は社会を支える重要なもの。経験しておくことは将来どんな分野に進むにせよ決して無駄にはなりません。

せっかく力を注いで教えた中学校の生徒がその結果、別の高校に進んでしまっては…という意見もありますが、もっと広い視点に立って考えないと。中高一貫教育によって地域全体の学力の向上につながれば、それは喜ばしいことです。

私はこう思う

～地元の声～

連携型中高一貫教育が始まる
三地域にお住まいの皆さんにご意見を伺いました。
皆さんはどうお感じになりますか？

「中高が提携することで子どもが早くから馴染めることがいいと思う。学力向上を期待したい。ただ、連携高校以外に進学する場合はどうなるのかが気になる。」 **上田 佳子**さん（相馬市）

「県南地域の教育レベルの底上げや、頑張る子どもに充実した教育をする点でよい試みだと思う。歓迎する。」 **吉田 泉**さん（塙町）

「連携高校に進みたいのであればメリットもあるだろうが、そうでなければあまり関係ないのではないか。」 **斉藤 昭男**さん（塙町）

「将来の仕事・進学などを見据えて中学校から考えていくのは良いこと。中学校と高校が連携することで互いの様子が分かることは教師にとっても生徒にとっても有意義ではないかと思う。」 **飯塚 敏明**さん（田島町）

特集[1]

中高一貫教育がスタート！

今後の動き

今年度の三地域に加え、平成18年度からは、同じく連携型中高一貫教育が県立富岡高等学校と地元町村の中学校との間で始まります。サッカーを中心としたスポーツのスペシャリストのほか、福祉や健康生活を担う人材や国際的なコミュニケーション能力を備えた人材を育てる学科が設置される予定です。

さらに平成19年度には、会津若松市に県立会津学鳳中学校が開校し、会津学鳳高等学校との「併設型」中高一貫教育がスタート。現在準備が進められています。

なお、今回始まる中高一貫教育は、県が平成15年3月に定めた「中高一貫教育実施計画」に基づいています。今回該当する中学一年生が高等学校を卒業する平成22年までを計画の前期と位置づけ、それまでの成果を踏まえて後期につなげていく考えです。

中高一貫 Q&A

Q1 連携型中学校から他の高等学校には進学できないのでしょうか？

A1 いいえ。連携型中学校の生徒の皆さんは、連携型高等学校を選んでもいいし、他の高等学校を選んでも構いません。もちろん連携している高等学校に進めば、六年間の継続的教育という中高一貫教育の利点を生かすことができます。

Q2 連携型中高一貫教育では、高校入試がなくなるのですか？

A2 なくなりません。連携型中学校から連携型高等学校へ進学する場合には「連携型入試」が行われます。連携型中学から連携していない高等学校へ進学する場合、または連携していない中学校から連携型高等学校へ進学する場合には今までどおりの入試があります。

Q3 連携型入試についてもっと詳しく教えてください。

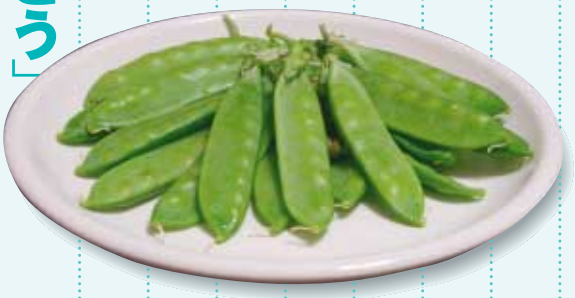
A3 連携型入試の募集定員は高校全体の募集定員の30％を下限に決定します。実施時期は、Ⅰ期選抜と同じ日か近接した日となります。選抜時には、連携している中学校から提出された調査書や面接の結果を資料として判断しますが、中学校の学習成果に関する課題研究リポートや基礎学力、実技などの適性検査の結果を加える場合もあり、詳しいことは今後学校ごとに決められます。

問 県庁県立学校グループ ☎024(521)7763

いいもの発見 うつくしま

野菜編

「さやえんどう」



風薫る季節から出始めるさやえんどう。マメ科に属するエンドウの一種で、若い莢（さや）を食べる種類がさやえんどう、成熟する前の実を食べる種類がグリーンピース、莢も実も食べられる種類がスナックエンドウです。

原産地は中央アジアから中近東と言われており、代表的な品種は「絹さやえんどう」です。ビタミンA・Cや食物繊維が豊富で、調理法はごく少量の塩でさっと茹でます。

本県は、作付面積、出荷量ともに全国第3位と全国有数の産地で、特に梁川町、保原町、霊山町で生産が盛んです。

福島の新鮮なさやえんどう。食卓に彩りを添える鮮やかな緑と、旬の味をぜひお楽しみください。